

日中翻訳——「天声人語」(1997.7.18)を例に ——その2

要旨

『朝日新聞』のコラム「天声人語」の中国語訳に関して、これまでは数編の論文で検討してきた。この度、「天声人語」(1997.7.18)「世襲について思う」の中国語訳(《天声人語集萃》、外研社出版、以下「訳文」とする)を取り上げるが、この「訳文」に関しては、すでに「日中翻訳——「天声人語」(1997.7.18)」(『研究会報告・国際連語論学会(44)』2019年)で、連語と関連させながら、言語表現の一般性・普通性・抽象性と個別性・特殊性・具体性、言語表現における未然と已然、さらに、アスペクト、可能表現、言語表現のポテンシャル性とリアル性、そして、言語の時空性と意味の域の広さなどについて論じている。この論文では、主に「いうまでもなく」、「印」、「というだけで」、「どの辺に狙いがあるのか」、「考えた方がいい」、「いられる」、「前項の補足になる」、「周囲」、「納得している」、「人事の公正さの点でも問題あり」、「売り家と唐様(からよう)で書く三代目」などの言葉につて、その意味を分析し、そして筆者なりの中国語の訳例を提示する。

文中の1例だけを示すことにする。

「いられる」

叙述をしやすくするため、「天声人語」の原文と「訳文」の第四段落を引用しておく。

(1) 若いときから経営の中枢にいられる。経営者経験を十分に積むことができる。若くして社長になれば、経営若返りにも役立つ (2) 前項の補足になるけれど、帝王学を学んでいれば、ほとんどの場面で物おじせぬ。国際的な取引にも対応できる (3) 先代を除いて、社内に怖いものなし。それは、ビジネスチャンス逃さない素早い決断にも結びつく

①年轻时进入经营管理中枢，可以积累丰富的经验。年纪轻轻任总经理，有益于推动管理层之年轻化。②现补充一下前一项：如果学点“帝王学”，他(指世袭的年轻总经理)在几乎所有场合都不会怯场，还可以(从容地)从事国际贸易。③在公司里除了他的前任以外，没有他怕的人。这样他可以不失商机地从速作出决定。

「いられる」はこの段落の中の最初の文の述語である。「訳文」では、これに“进入”を当てている。理屈から言えば、この語は難しい言葉ではない。基礎の段階から学んでいる。これは存在を表す動詞「いる」の可能形である。ずばりといえば、“可以存在”、“能够存在”「存在できる」という意味である。原文の「若いときから経営の中枢にいられる」は“从年轻的时候就可以位于公司经营的中心”という意味である。訳者は、もし「いられる」をただ“在”と訳し、その文を“从年轻的时候就可以在经营的中心”とすることはあまりにも文才がないと思い、その代わり“进入”を使って表現しようとするなら、この訳し方はまだ許せる。しかし“进入”といえば、日本語の「入る」という意味で、“年轻时进入经营管理中枢，可以积累丰富的经验”という「訳文」の表現なら、ただ仮定を述べているだけであって、別に世襲制の良い点を述べているのではないと理解されてしまう。そのほか、“进入”は瞬間的な動作を表しているのに対して、存在を表す“在”は長い時間という長期の状態を表す。したがって、ここでは、やはり最も簡単な動詞“在”で訳した方がよかろう。ほかに、「いる」は“位于”「位置する」(『中日大』)ということもできれば、“处于”「身を置く」(『中日大』)ともいえる。いずれも“在”のバリエーションである。